

ESDって何だろう？

ESD(Education for Sustainable Development)とは、「一人ひとりが世界の人々や将来世代、また、環境との関係性の中で生きていることを認識し、持続可能な社会の実現に向けて行動を変革するための教育のこと」を言います。

具体的には、単なる知識の習得や活動の実践にとどまらず、日々の取組の中に、持続可能な社会の構築に向けた概念を取り入れ、問題解決に必要な能力・態度を身に付けるための工夫を継続していくことが求められています。



ESDの経緯

2002(H14)年9月	ヨハネスブルグ・サミットで日本が「国連持続可能な開発のための教育の10年(UNDESD)」提案 (UNDESD : United Nations Decade of Education for Sustainable Development)
2002(H14)年12月	国連総会でUNDESDが満場一致で決議
2005(H17)年1月1日～	「国連持続可能な開発のための教育の10年(UNDESD)」スタート
2009(H21)年3月	ESD世界会議(ドイツ・ボン)
2014(H26)年11月	UNDESD最終年、ESDに関するユネスコ世界会議の開催(日本)

今年11月に日本でESDに関するユネスコ世界会議が開催されます！

- 2014年11月4日～8日 各種ステークホルダー会合 (岡山・岡山コンベンションセンターほか)
- 2014年11月10日～12日 閣僚級会合及び全体の取りまとめ会合等 (愛知・名古屋国際会議場)
- 「ESDの10年」の活動を振り返るとともに、2015年以降のESD推進方策について議論します。



環境省と文部科学省では、ESDに関する国民の関心を高めるため、両省のマスコットキャラクターを特別にコラボレーションした「コラボキャラクター」を作成し、普及啓発活動に役立てています。

<環境省・文部科学省コラボキャラクター>